1　青年期

2　第二次性徴

3　思春期

4　プレ成人期（前成人期）

5　ギャング-エイジ

6　マージナル-マン（境界人）

7　レヴィン（1890～1947）

8　イニシエーション（通過儀礼）

9　ルソー（1712～78）

10　『エミール』

11　第二の誕生

12　自我のめざめ

13　心理的離乳

14　ホリングワース（1886～1939）

15　第二反抗期

16　コンプレックス

17　劣等感（劣等コンプレックス）

18　優越感

19　青年期の延長

20　G. H.ミード（1863～1931）

21　主我と客我

22　一般化された他者

23　クーリー（1864～1929）

24　鏡映的自己

25　ピアジェ（1896～1980）

26　脱中心化

27　アリエス（1914～84）

28　M.ミード（1901～78）

29　性格

30　気質

31　能力

32　パーソナリティ

33　個性

34　ユング（1875～1961）

35　内向性

36　外向性

37　クレッチマー（1888～1964）

38　シュプランガー（1882～1963）

39　理論型・経済型・審美型・社会型・権力型・宗教型

40　類型論

41　特性論

42　アイゼンク（1916～97）

43　ビッグ・ファイブ

44　ミシェル（1930～2018）

45　対応バイアス

46　社会的比較理論

47　フェスティンガー（1919～89）

48　自尊感情

49　自己高揚動機

50　セルフ・サービング・バイアス

51　欲求

52　第一次欲求（生理的欲求）

53　第二次欲求（社会的欲求）

54　葛藤（コンフリクト）

55　接近―接近型・回避―回避型・接近―回避型

56　欲求不満（フラストレーション）

57　耐性（トレランス）

58　ストレス

59　適応

60　合理的解決

61　近道反応

62　防衛機制

63　抑圧

64　合理化

65　同一化（同一視）

66　代償（補償）

67　昇華

68　置き換え

69　反動形成

70　退行

71　逃避

72　フロイト（1856～1939）

73　アドラー（1870～1937）

74　マズロー（1908～70）

75　生理的・安全・愛と所属・自尊

76　創造・価値・自由・自己実現

77　サリヴァン（1892～1949）

78　感情

79　エクマン（1934～）

80　恐れ・怒り・悲しみ・驚き・嫌悪・幸福

81　ラッセル（1947～）

82　「快―不快」と「活性―不活性」

83　感情の末梢起源説

84　ウィリアム＝ジェームズ（1842～1910），ランゲ（1834～1900）

85　「悲しいから泣くのではなく，泣くから悲しいのだ」

86　感情の中枢起源説

87　キャノン（1871～1945），バード（1898～1977）

88　感情の二要因説

89　シャクター（1922～97），シンガー（1934～2010）

90　認知

91　感覚

92　知覚

93　知覚の恒常性

94　錯覚

95　錯視

96　ミュラーリヤー錯視

97　ルビンの壺

98　記憶

99　符号化・貯蔵・検索

100　符号化（記銘）

101　貯蔵（保持）

102　検索（想起）

103　短期記憶と長期記憶

104　作動記憶

105　アルゴリズム

106　ヒューリスティックス

107　ピアジェ（1896～1980）

108　感覚運動期

109　前操作期

110　具体的操作期

111　形式的操作期

112　発達段階

113　発達課題

114　親やおとなからの精神的独立，情緒的安定と社会性・職業観・人生観の確立など

115　エリクソン（1902～94）

116　アイデンティティ（自我同一性）

117　アイデンティティの確立

118　アイデンティティ拡散の危機

119　モラトリアム

120　役割実験

121　ライフサイクル

122　オルポート（1897～1967）

123　自己の拡大，自己の客観視，人生観の確立など

124　ハーヴィガースト（1900～91）

125　コールバーグ（1927～87）

126　慣習以前の水準・慣習的水準・慣習以後の水準

127　罰と服従への志向

128　利害を重視する志向

129　同調的・「よい子」志向

130　「法と秩序」志向

131　社会契約的な法律志向

132　倫理的な原理への志向

133　小此木啓吾（1930～2003）

134　モラトリアム人間

135　ピーターパン-シンドローム

136　ミーイズム

137　アパシー-シンドローム

138　スチューデント-アパシー

139　若者文化（青年文化，ユース-カルチャー）

140　サブ-カルチャー

141　人生観

142　理想主義

143　現実主義

144　世界観

145　唯物論

146　観念論

147　主体性

148　自己喪失

149　価値

150　志向

151　自己充実感

152　生きがい

153　自己実現

154　倫理的自覚

155　真・善・美

156　真・善・美・聖

157　価値の多様化

158　ヘルマン＝ヘッセ（1877～1962）

159　フロム（1900～80）

160　社会的性格

161　『自由からの逃走』

162　フランクル（1905～97）

163　生きる意味

164　ロゴテラピー論

165　『夜と霧』

166　シェーラー（1874～1928）

167　マルティン＝ブーバー（1878～1965）